

スリランカ視察報告

子どもたちの「心のケア」が課題

評価された「ラブ&アフエクション・キャンプ」

2月12日(土)より16日(水)まで、日本YMCA同盟の山根一毅氏、北YMCA館長の松野時彦氏の3名でスリランカYMCA同盟(以下NCYYS)および津波の被害に遭ったいくつかのYMCAを訪問してきました。

NCYYSでは、クリサンタ総主事を始めとするスタッフのみならず、大前YMCAが贈った募金に対する丁寧なお礼を受けました。また、10年間に亘り北YMCAの主管で

行ってきた「ラブ&アフエクション・キャンプ」のこともとても高く評価していただいていることを再確認することができました。なぜ「ラブ&アフエクション・キャンプ」はこの様な評価を得ているのでしょうか。それは、日頃大阪YMCA内での活動を通して育まれてきたボランティア精神、人と人との関わりの中で生まれている温かさが、スリランカでも受け入れられたということだと思います。

被災した子どもたちの心のケアをこれから大きな支援課題とし、今までの経験を生かしたキャンプの実施など民族融和にもつながるような支援を大阪YMCAで担えたらと思います。(田尻忠邦・みなとYMCAインターナショナルスクールのスタッフ)



スマトラ沖地震・津波被害に対する緊急支援募金のご報告

～大阪YMCAはスリランカの復興支援を行います～

募金期間 2005年1月5日～1月31日

募金総額 ￥783,735

大阪YMCAでは、2004年12月26日に甚大な被害をもたらした「スマトラ沖地震・津波」による災害被災者をおぼえ、緊急支援の募金活動を実施しました。一般寄付に合わせ、大阪YMCAに集うボランティアが街頭募金(計13回)を行い、多くの方々にご協力いただきました。この募金はスリランカYMCAに直接手渡され、現地での支援活動に用いられます。ご協力いただきました皆様方に、心からお礼を申し上げます。

今後のスリランカ支援について
現在、スリランカYMCA同盟と協働し、日本YMCA主催、大阪YMCA主管で、民族融和(4月、6月)、心のケア(8月)を目的とした子どもたちのためのキャンプを計画しています。また資金協力だけではなく、実施に携わるボランティア派遣(8月)を予定しています。

上海YMCA交流ツアー

生活環境の変化著しい上海

協働のプログラムを模索

2月18日(金)～20日(日)、大阪YMCA協力会員11名が上海YMCAを訪問しました。広大な田畑に囲まれた上海空港に降り立つと、味わったことのない

ほどの冷たく強い大陸風が私たちを出迎えてくれました。その後、上海YMCA総主事を始めスタッフの皆さんのあたたかい歓迎の中、上海YMCA本部において、上海、大阪YMCAの現状、課題などを互いにプレゼンテーションしました。上海は今、外国企業の進出や農村部から都市部への人口移動など急激な都市化が進み、地価が数年で2倍にも跳ね上がるなど、日本の高度成長期とバブル期が同時に訪れたようなものすごい勢いで変化しています。それに伴う生活環境の変化も著しく、同時に子どもの教育事情、

高齢者人口の増大など様々な問題や課題を抱えています。上海YMCAでは特にそれらの課題に取り組み、青少年が自分で考える力をつけるための体験学習が行える科学センターを設立したり、高齢者が心と身体の健康を促進するためのプログラムを考えています。また、日本に学び、人々のボランティアアマインドを育み、ボランティアを育てていきたいとも話されていました。上海YMCAでは、2010年に上海市で開催される国際博覧会への取り組みを考えています。大阪YMCAの展



2004年度 大阪YMCA留学生 奨励金受給者

国際専門学校日本語学科 賀 臻

開するVISION2010と同じ2010年に向かつて、それぞれのYMCAが協働し、生かしかされるプログラムを模索していければと思います。(仲島理恵・大阪YMCA常議員)

大阪YMCA学院上町校バスネット・ピカシユ この奨励金は、YMCA日本語学校在籍中、出席状況、学業成績ともに優秀な留学生の努力をたたえるものです。支給される十万円は大学、専門学校進学に必要な諸費用の一部にあてられます。この2人は進学後もYMCAの諸活動に携わっていただく予定です。これらは、国際奨励金(賛助会助成金、クリスマス献金等)により支援されています。

国際専門学校・特別授業

アテネパラリンピック出場の大前・川島両選手を迎えて

障がい者スポーツの現状と今後

1月18日(火)と19日(水)の両日、本校専門課程およびスポーツ&ウエルフェア学科の学生を対象に、アテネパラリンピックに出場した選手2人による特別講義が行われました。18日は車いすテニス4位の大前千代子選手、続いて19日は車いす陸上の川島由美選手に、それぞれの立場から自身の生

い立ちや障がい者スポーツの現状と今後について語っていただきました。大前選手はテニスを始めた当初、屋外で風を感じながらプレイできることに感激されたとか。「健常者にとつて当たり前だが、私にとつては感動的だった」と話されました。勝つためなら海外の大会にも積極的。そんなテ



大前千代子さんとスポーツ&ウエルフェア学科福祉スポーツコースの学生

ニスへの情熱を語る一方、友達に自分のことを誇らしげに話す息子さんに顔をほころばせる母親らしい一面も。川島選手は、アテネ

直前に指導を受けたパートナートレーナーとのエピソードを話されました。曰く、「世界を広げてくれた人」。トレーニング内容には、川島選手自身も予想でしななかった下半身強化のメニューがあったとか。当初は驚いたようですが、その効果は大きく、1カ月後にはベスト記録を更新したそうです。

お二人ともアテネでの成績には満足しておらず、次回の北京大会ではメダル獲得を目指すとのこと。障がい競技用マシンをバックに熱く語る川島由美さん

